

---

# サバイバル【三語即興文】

和波智淳

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

サバイバル【三語即興文】

### 【Nコード】

N7194E

### 【作者名】

和波智淳

### 【あらすじ】

三語即興文です。お題は『ミサイル』『日の出』『落ちる』。制限時間は二時間でしたが、今回も時間内に完成しませんでした……。

(前書き)

三語即興文です。お題は『ミサイル』『日の出』『落ちる』。制限時間は二時間。

二時間あってもこれだけしか書けませんでした……。また後ほど加筆したいと思います。

「だだだだだだっ！ だだだだっ！」

まばらな木々を縫うように、低い声が響いていた。

白く湿った霧の中、ごつい半長靴が草地を蹴る。陸上用の戦闘服に身を固めた人影は、隙のない動きで木の陰から陰へと走り、周囲を見回し、時に何かを目に留めては手にした突撃銃を構え、叫ぶ。

「だだだだだだだ！」

その声が途切れた後には、答えるものの物音一つない。ただ、チキチキ、チチチチ、と、木々を飛びかう小鳥の音が時折耳に入るばかりだ。

それを確認した戦闘者は、用心深く木の陰に身を隠したまま、チャツと音をたてて突撃銃を下ろした。

「……敵性体、全て沈黙」

黙って突撃銃の弾倉を外し、残弾を確認し始める。まあ、実際は撃っていないのだから弾数が変わるはずもないが、そこはリアリティ優先というものだ。その作業と平行して、何回「だ」と叫んだかつまり脳内設定で何発撃ったのか を正確に記憶から拾い上げ、さらに、そのうち何発が有効だったかを疑似中枢神経系システムに組み込んだ戦闘シミュレーションプログラムに通し、厳正に判定する。

問題なし。自分の撃った弾は模擬敵性体の全てを確実に葬った。無駄弾の数も想定範囲内に収めることができた。次は、これらの弾丸を実際に消費した場合の金銭的シミュレーションを行わなければ

「おい、ガッツ君、ごはんだよー」

霧の奥から

「こらー、ガッツー。……ったく、

聞き慣れた声。ザク、ザク、と草を踏み分ける音。

「補給地点到着」

ガッツは草地の中、間伐材らしき丸太の山の陰に飛び込み、隠してあったバッグを取り上げた。

「敵性体視認。20メートル級のSDVと判定、ただし型式は不明。

」  
ガッツは

「ミサイル発射！」

「敵性体、沈黙」

「いや、沈黙してないし！ てゆうか飯！ 朝飯食わないとリヴァイヴアに怒られる！」

「……ミサイルが命中したにもかかわらず落ちないとは」

「……ゾンビめ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7194e/>

---

サバイバル【三語即興文】

2010年10月14日13時46分発行